本日の協議事項について

1. 薬学教育の制度（質保証）について

- ①薬学生が実務実習において薬業を行える担保としての「薬学共用試験」及び「第三者評価」の位置付けについて<日本薬剤師会・協議事項>

薬学教育 6 年制実施後全ての大学で、「薬学共用試験」及び薬学教育評価機構による「第三者評価」が実施されてきた。「薬学共用試験」は、実務実習実施前の学生が実習を実施できる能力を有しているかを確認するために、「第三者評価」は大学での教育全体が、モデル・コア・カリキュラムに基づく適正な教育が実施されているかを確認するために、それぞれ重要な役割をこれまで果たしてきた。薬剤師を養成する薬学教育が 6 年制になってから 20 年を迎えようとし、当該 2 つの制度が軌道に乗ってきた現在、実施の重要性を改めて確認したい。

2. 創薬研究について

- ①創薬強化との両立について<日本病院薬剤師会・協議事項>

令和 4 年度のコアカリ改定では、臨床の強化に重点を置くことを中心に議論されて改訂が行われました。一方、令和 6 年 7 月に公表された「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」中間とりまとめを踏まえた政策目標と工程表において、次期コアカリは令和 8 年度から検討開始予定であること、次期コアカリ改訂に向けて、創薬につながる薬学人材養成のための教育内容について検討することが記載されています。今後、どのように創薬と臨床の両教育を両立させていくのかについて、意見交換をしたい。

3. 薬学実務実習について

- ①病院・薬局実習に対する基本的な考え方（施設要件等）について<薬学教育協議会・報告事項>

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム 令和 4 年度改訂版」に対応した「臨床における実務実習に関するガイドライン」が公表されたが、そこでは、実習施設の要件を薬学教育協議会が示すこととされている。協議会では、実務実習ガイドライン改訂 WG を設立し、この問題について審議を行い、関係団体の意見も踏まえて「病院・薬局実習に対する基本的な考え方（施設要件等）（案）」をとりまとめ、実務実習推進委員会で審議し決定したため報告する。

②臨床における実務実習に関するガイドライン（令和5年12月）に記載された「追加の実習」に関する対応方針について〈薬学教育協議会・報告事項〉

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版」に対応した「臨床における実務実習に関するガイドライン」内の「2-1 実習期間・実習順（3）実務実習の更なる充実のために」において、実務実習終了後に「追加の実習」を選択で実施することが記載された。この「追加の実習」が、全国レベルで円滑にかつ効果的に行われるように、協議会では実務実習ガイドライン改訂WGを設立し、この問題についての対応方針を審議し、実務実習推進委員会において決定して順次公表することとしている。今回は、当該対応方針について報告する。